# 営農 INFORMATION

＊今月号は私が担当しました。

営農振興課
営農経済渉外係
近藤　慎太郎

## 畜舎内の環境について

7月に入り、夏もいよいよ本番を迎えます。牛も豚も鶏も、もちろん私たち人間も暑さに弱いという点は共通していて、各農場で暑熱対策等に取り組んでいることかと思います。

今回は基本に立ち返り、畜舎内の環境についてご紹介します。

### 【畜舎の環境とは?】

そもそも畜舎の環境とは何を指すのでしょうか?畜舎の環境は大きく分けて「空気」「水」「飼料」の3つがあります。農場内で起きている問題や課題は、おおよそこの3つに起因するといっても過言ではありません。

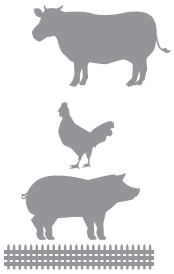
農場には、ほぼ毎日足を踏み入れ、その度に「空気」「水」「飼料」を目にしたり、肌で感じたりすると思いますが、そんな身近にある当たり前なものだからこそ、本来の役割や本質を見失いがちだと感じます。

### 【空気について】

畜舎内の空気を構成しているものは何でしょうか?気温、湿度、風、臭気など…挙げればキリがないくらいに、この「空気」というものは様々なものから構成されています。

閉め切られた畜舎は、アンモニアや二酸化炭素など、汚い空気がこもり、家畜にとってストレスや病気の原因となります。逆に夏場は畜舎を開放させがちだと思いますが、夕立による急な降雨や強風が、気温の低下を引き起こします。

家畜を観察する時間を長く確保し、カーテンを調整する回数を増やすことで、「空気」の変化に迅速に対応できます。



### 【水について】

家畜は毎日多量の水を必要とします。肉豚は飼料摂取量の2～3倍の水が必要と言われていますが、そもそも水を飲むことが出来なければ飼料を摂取することもできません。

これからの時期は特に飲水量が増えていくと思いますが、たとえ汚れた水や品質に問題のある水であっても、家畜は与えられた水をそのまま飲むしかありません。飲水タンクや飲水器の点検・清掃を実施し、自分自身が飲めるくらい清潔な水を家畜にも与えてください。

### 【飼料について】

飼料も水と同様に、家畜は自分自身で口にするものを選択できず、与えられたものをそのまま摂取するしかありません。

この時期によくある話が、飼料タンク内で固結した飼料が腐り、そのまま餌ラインを流れてしまい、家畜が口にしてしまうという事案です。ぜひこの機会に、飼料タンク内や給餌に使用する器具、飼槽、餌箱の清掃を実施してください。

### 【まとめ】

畜舎の環境、すなわち「空気」「水」「飼料」は冒頭にも述べましたが、どの農場にも当たり前のように必ずある身近なものです。そのため、飼養管理やコスト削減等に意識がとられ、これらの基本的なものを軽視してしまいがちになるように感じます。

家畜はペットではありませんが「動物」です。マニュアルで換気の回数や、水の飲水量、飼料の量が決められていたとしても、必ずうまくいくとは限りません。その理由は、私たちと同じ「動物」だからです。牛、豚、鶏は「群」で見ればたくさんいる中の一頭かもしれませんが、「個」で見れば足の長さも、体の大きさも、飼料を食べる量も全て異なる一つの命です。

今の畜舎の環境が適切かどうかは家畜自身が教えてくれます。ぜひ、家畜と会話する時間を増やし、「空気」「水」「飼料」が今の畜舎に適切かどうかを聞いてみてください。そして、日々の仕事がただの「作業」にならないように牛、豚、鶏のことを一番に考えられるようにしましょう。